

# 心肺蘇生法講習会 Report

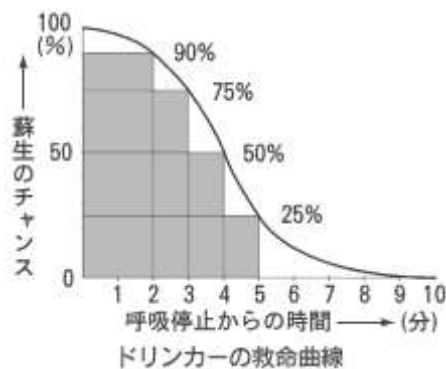
名称：伊丹市まちづくり出前講座(応急手当講習)

日時：平成 27 年 11 月 11 日 15:00～16:00 於：伊丹学習室

講演者：伊丹市消防局東署 4 名 講演内容：心肺蘇生法(DVD 及び AED 実演実習)

受講者：6 期生の有志の方々約 19 名+事務局 1 名合計 20 名

まず、事前に HSC 内で配布した「心肺蘇生法を学ぼう」と共に、消防署側から配布された「応急手当の重要性」のチラシで、心肺蘇生法などの応急手当の重要性を学びました。DVD で動画による一通りの手順を学び、モデル半身人形と演習用 AED を使って消防署員の方々が具体的な実演をしていただきました。実際に目の前で心肺蘇生法を見るのが初めての生徒もいて、皆さん大変熱心でした。「心肺蘇生法を学ぼう」に掲載したものと重複しますが、心肺蘇生法と AED の使用手順を再掲します。



緊急時に何をどうすれば良いのか？たとえご自身で出来なくても、手順を知っておくことで、周りの人に協力を求めて命を救う事が出来ます。心臓や呼吸が止まると、分単位で蘇生率が低下して行き、左図で表すように **5 分間** 放置すれば **25%** しか救命出来ないとされています。連絡を受けた消防署から救急車が現場に到着するのは、**H22 全国平均 7.9 分(H26 伊丹市 6.1 分)** で、蘇生できない恐れが有り、すぐ傍の人が心肺蘇生を行って救命する事が大事です。

心肺蘇生法の標準的な手順は、以下の通りです。



- ①倒れている人を見つけたら、まず現場の安全を確認し、危険な位置から移動する。
- ②肩を手のひらで叩いて『大丈夫ですか』と 3 回繰り返し、意識確認をする。
- ③意識が無ければ、周りの人に「誰か助けて！」と大声で叫んで、119 番通報と AED の手配を頼む。この時一人一つの役割を言い、必ず戻って来て報告をしてほしいと言う。
- ④顎を頭の方に引いて気道の確保をして呼吸の確認をし、無ければ胸骨圧迫を 100 回/分以上のペースで行う。胸が 5cm 程度上下するようにしっかり肘を伸ばして圧迫する。
- ⑤AED が到着したら、電源を入れて音声解説に従い、要救助者の胸の皮膚に直接電極パッドを張り付ける。右胸にペースメーカー装着をしている場合は、心臓を挟みこむ両胸脇で良い。
- ⑥AED が自動心電図解析をして、必要となれば要救助者の周りから介助者に離れてもらい、電気ショックボタンを押す。
- ⑦電気ショック後、電極パッドを張ったまま、直ちに胸骨圧迫を再開し、必要なら⑥を繰り返す。
- ⑧救急車が到着したら、救命処置の種類と電気ショックの回数を伝える。

大勢の受講者に感謝すると共に、東消防署の方々や講習場所の伊丹学習室事務局に感謝します。

(文責：大島 勲)



消防署員 紹介



心肺蘇生法解説



AED 使用法解説



心肺蘇生法実習



心肺蘇生法実習



心肺蘇生法実習



回復体位



心肺蘇生法実習



熱心に聴講する受講生